

# プロセス改善を うまくすすめる自分流の アプローチ！

2009/10/2（金）

ソフトウェアテストシンポジウム2009北海道  
ライトニングトークス

株式会社 HBA 猪股 宏史

# プロセス改善推進者として 目指しているプロセス改善

- プロジェクトメンバーが今までよりよくなったぞ！  
という実感が得られる。  
→いままでの苦しい状態よりも楽になる。  
(もちろん、いままでよりも良いモノをつくれることも！)
- プロジェクトメンバーがほとんどやらされ感を持たない。  
自分たちで考えて取り組んだんだぞ！と自信をもって言える。  
(プロセス改善をしています。ということを意識させない。  
改善を業務と別ものとしなない)
- プロジェクトメンバーと私の信頼関係が築ける。  
(上記のように進めた結果として)

# 自分流のアプローチをしよう！ と考えたキッカケ

さまざまな要因(実際に改善を検討・実行する人がおかれている環境、取り組む意識、スキル状態など)によって改善がうまく進められない、進まないことがあります。

その中でも、具体的な問題点や原因を特定できないまま、手段を講じてしまい、改善がうまくいっていない状況が多いように感じています。

その結果、プロジェクトの苦しい状態が続いているように思われます。

# 自分流のアプローチをしよう！ と考えたキッカケ

## そこで！

まずは自分が働きかけられるプロジェクトに、具体的な問題点や原因の特定を支援することで、苦しい状態を打開していけるのではないか！？  
と考えたことがキッカケです。

※手段を提供してしまうと、やらされ感を与えてしまいます。

# 自分流のアプローチとは！？

- 2つのアプローチ方法があります。

## ①問題発見のアプローチ

(問題領域をまだ発見していない場合に用いる。  
プロセスアセスメントモデルを参考にしたアプローチ)

## ②原因特定のアプローチ

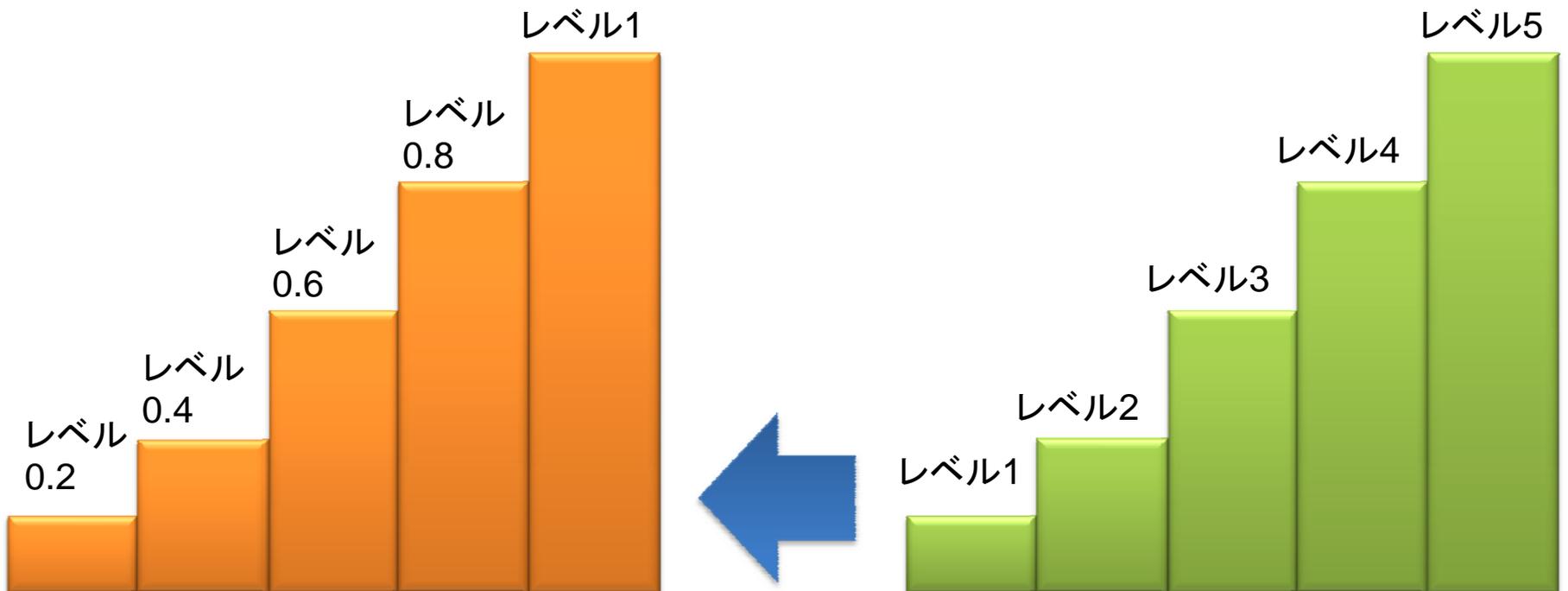
(問題を感じていてすぐに解決したいが、  
どんな手を打ったらよいかわからない  
メンバーがなかなか対応を検討する時間  
がない場合のアプローチ)

# 問題発見のアプローチ(イメージ)

モデルを用いたプロセスアセスメントは、やり方しだいで、具体的な問題が発見できない場合があります。また、評価者の能力で結果が大きく左右されます。

なので、

具体的な問題点が発見するために、組織の現状とモデルを参考に現在の組織の次の問題を明らかにできるように、簡易な確認項目(モデルよりわかりやすく、重点に絞った具体的な項目)を作成し、評価することで、以前より的的に近い課題を特定できそう。



# 原因特定のアプローチ

- 日常の会話の中で得られた情報(立ち話、飲み会などなど)から状況を整理して、手を打つべき原因を想定し、自分から提案してみる。



- 上記の段階では、想定が外れている場合が多いが、提案内容をベースに話をすることができたため、より深い情報を相手が話してくれる。



- えられた情報をさらに分析することで原因が特定でき、さらに話している本人の気づきと同意が得られるため、やらされ感のない改善が進められる。

# おわりに

- これらの実践成果は・・・と言いたいところですが、今、お話した内容はまだ取り組みを始めたばかりの内容であるため、具体的な成果(最初にお話した、目指している改善やプロジェクトの状態がどうなったか)は確認できていません。
- 今後、このアプローチを継続してみて、よりよい改善アプローチ方法を考え続けていきたいと思えます。